

平成 26 年度老人保健事業
推進費等補助金(老人保健
健康増進等事業)報告書

認知症介護実践研修、指導者養成研修のあり方
およびその育成に関する調査研究事業
報告書

平成 27 年 3 月

社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター

はじめに

社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤 伸 司

認知症は加齢と共に増加していくことが知られており、平成 25 年の朝田の推計によれば、85～89 歳の認知症の出現率は 41.4%となる。つまりわが国の女性の平均寿命まで生きると、4 割以上が認知症になる可能性があるということであり、認知症は高齢者にみられる一般的な疾患といえるだろう。今後増加が見込まれる認知症対策としては、認知症の人に対して質の高いケアを提供できる人材を育成していくことが重要である。

平成 13 年度から認知症介護の段階的研修として始まった「痴呆介護実務者研修基礎課程・専門課程」「痴呆介護指導者養成研修」は、その後見直され、平成 18 年度から「認知症介護実践者研修」「認知症介護実践リーダー研修」「認知症介護指導者養成研修」となった。平成 13 年度から始まった体系的な研修は一定の成果を挙げ、その受講者は 20 万人を超えたが、その数は高齢者領域の介護労働人口の 2 割にも満たない状況であり、介護現場に十分行き渡っているとは言いがたい。一方これらの研修の自治体間格差が指摘されるようになり、平成 25 年度に日本能率協会総合研究所が行った「認知症ライフサポートモデルを実現するための認知症多職種協働研修における効果的な人材育成のあり方及び既存研修のあり方に関する調査研究事業」では、研修関与者の問題として、①自治体・研修団体間の格差、②講師間の格差、③受講者間の格差が指摘された。また研修内容の問題として、①研修内容の重複やばらつき、②介護現場ニーズへの対応の問題、研修制度の問題として、①受講者・所属機関の負担の大きさ、②加算要件等の公平性に対する疑問、③受講者評価の未実施などの問題が指摘された。

認知症ケアにかかわる人材育成に関しては、初任者からスペシャリストまで様々な段階の幅広い人材育成が望まれ、その教育は全国的に共通したものであることが望ましい。そのため本研究事業では、これまでの研修内容を見直し、より統一的な研修ができるようにシラバス案とカリキュラム案を作成した。また初任者用の研修として短期間で受講できる認知症介護基礎研修（仮称）も提案した。今後はこれらの研修を実施することによって、質の高いケアを提供できる人材が増えていくことが望まれる。またそのことによってわが国の認知症の人が、すべて質の高いケアを享受でき、認知症の人と介護家族の生活の質が向上していくことを祈念している。

平成 27 年 3 月

はじめに

I. 研究事業の概要

| | |
|--------------|---|
| 1. 目的 | 1 |
| 2. 実施体制 | 2 |
| 3. 主な活動日程と内容 | 4 |

II. 現行研修の課題の抽出と検討

| | |
|-----------------------|----|
| 1. 認知症介護基礎研修(仮称)創設の背景 | 7 |
| 2. 認知症介護実践者研修の課題 | 10 |
| 3. 認知症介護実践リーダー研修の課題 | 22 |
| 4. 課題の検討 | 29 |

III. 基礎研修の概要及び現行研修の要点と新旧比較

| | |
|--------------------|----|
| 1. 認知症介護基礎研修(仮称)概要 | 33 |
| 2. 認知症介護実践者研修 | 36 |
| 3. 認知症介護実践リーダー研修 | 46 |
| 4. 認知症介護指導者養成研修 | 60 |

IV. シラバス及び研修教材

| | |
|------------------|-----|
| 1. 認知症介護基礎研修(仮称) | 73 |
| 2. 認知症介護実践者研修 | 85 |
| 3. 認知症介護実践リーダー研修 | 103 |
| 4. 認知症介護指導者養成研修 | 123 |

V. 新カリキュラム説明会の実施

| | |
|---------|-----|
| 1. 目的 | 145 |
| 2. 開催概要 | 146 |

VI. 現状の課題と今後の計画

| | |
|----------------|-----|
| 1. 現状の課題の抽出と整理 | 149 |
| 2. 今後の計画 | 156 |

| | |
|-------|-----|
| 参考通知等 | 159 |
|-------|-----|